

大規模水田農家の現状と課題

安部勇徹・渡辺幸一（大分県農業技術センター）

Yutetsu ABE and Kouichi WATANABE : Problem for rice product farmer

大分県の水田農家は高齢化、担い手不足と中山間を中心とした過疎化が進行、さらに新食糧法の施行で産地間競争が激化している。今後の米生産は省力・低コスト化および高品質化が強く求められている。そこで今回、大規模水田農家に定着しやすい生産技術の開発の方向を明らかにするため、農家の生産技術構造の現状およびその問題点や今後の展開方向について意向調査を実施した。

1. 調査方法

調査は県下の大規模水田経営農家94戸を対象に郵送によるアンケート方式とし、記述は選択式で実施した。回収数は70戸、回収率74.4%であった。

2. 結果および考察

1) 経営内容について

経営者の年齢は30～40才代19%、50才代29%、60才代以上52%と60才代以上の経営者が半数をしめ大規模農家の高齢化が進行している。次に、「後継者のいる農家」は38%に対し、「いない・未定」の農家は62%と大規模農家においても担い手不足が顕著になっている。農家の経営規模は1～4haが75%と最も多く、10ha以上は10%であった。また、麦の作付け農家は24%と少なく、生産の不安定や価格の低下が大きく影響している。米専作農家は7%であるが、米以外で作付けている主な作目は露地野菜26%、施設野菜19%、畜産17%等であり、大規模水田農家は複合経営で経営規模の拡大を目指しているものの、米価の値下がり現象や複合作目の価格が不安定で将来の活路が見いだせない部分もあり、今後水田作における経営の確立が課題と思われる。

2) 米生産について

経営の関心事は良質米生産が76%と最も多く、この外、省力削減46%、米の価格45%、生産調整の動向38%、新品種・新技術33%等への関心が高い。また、品種選定での重視項目は良食味と耐倒伏性の割合が高く、高品質で耐病性の高い米生産への期待がうかがえる。現状の米10a当たり収量では9俵が26%で最も多く、全体の平均は8.7俵で農林統計の県平均8.4俵と同程度といえる。将来期待する10a当たり収量は平均で9.5俵であり現在の収量より1俵程度の多収になることを期待している農家が多い。以上のことから今後良質で多収な品種および生産技術の開発が課題である。

3) 作業について

きついと思う作業では畦畔草刈作業72%が最も多く、次に肥料散布37%、畦塗り・防除が各28%、田植え準備22%等の順となっている。特に草刈作業の改善が規模

拡大を図るうえでの大きな課題となっている。また、省力軽減策には直播栽培を導入するが33%で最も多く、直播栽培に対する農家の関心が高い。

4) 生産費について

低コスト化対策としての削減を望む費目では機械費の割合が83%と高く、次に農薬費77%、肥料費25%の順となっている。将来望ましい米コストは60kg当たり10,000円程度とする農家が30%と最も多く、全体の平均は10,250円であった。直播栽培の導入や機械の共同利用、圃場の大区画化等によりいかに低コスト化を図るかが課題である。

5) 米の販売先について

今後の米販売先は農協が59%と最も多く、次に自主販売29%、米流通業者12%となっている。大規模農家では自主販売をしたいと考えている傾向もみられるが主体は農協となっている。米の希望販売価格は60kg当たり20,000円とする農家が49%と最も多く、全体の平均は19,580円であった。米価の低迷の中で高付加価値化が課題である。

6) 直播栽培について

直播栽培の主な効果としては省力効果66%、低コスト効果22%、作業の分散化11%をあげる農家が多い。直播の問題点としては除草作業67%と除草剤の除草効果に対する不安感が大きく、この外発芽の安定40%、水管理32%、低収22%、倒伏14%等である。直播栽培では播種後におけるきめ細かな作業の安定化技術の確立が必要である。また、直播栽培で期待されるコストの削減は30%減が49%と最も多く、期待される収量は育苗移植と同じが40%で最も高かった。これらのことから直播栽培では3割減の低コスト化に加えて収量は育苗移植と同程度に近い収量を期待しているといえる。

7) 以上の結果から、大規模水田農家は高齢化、担い手不足が進行し、水稲栽培の規模拡大は比較的少なく、園芸作物等の導入による経営の複合化をめざし、その一方で生産技術では省力化技術等の導入に大きな関心をもち、とりわけ直播栽培技術の確立等が望まれている。そこで、今後は水田の大区画化や集落営農等の経営方式を導入し、消費者ニーズの高い高品質で低コスト（輸入米政府買入価格並みの6000円/60kg程度）、労働時間は10a当たり5～7時間で生産可能な直播等による省力、低コスト技術の開発が必要である。